

1.1 オリエンテーション

1. ロジカルコミュニケーションについて

1.1 オリエンテーション

1.1.1 研修のねらいと目的

(1) 研修のねらい

「情報を分かりやすく伝える」、
そのために必要な**「論理的な整理法」**を修得しながら、
演習を通して、実践に役立つコミュニケーションスキルを体得する

(2) 目的

- 情報をロジカルに整理し、分かりやすく伝えるフレーム(構図)を学ぶ
- 多様性・グローバル時代における個々のコミュニケーションの違いを認識する
- コミュニケーションを円滑にするための気づきを深め、相手への関わり方を観察するスキルを高める

© Hitachi Information Academy Co., Ltd. 2014. All rights reserved.

国内市場が成熟する中、グローバル化やテクノロジーは絶え間なく進展しています。

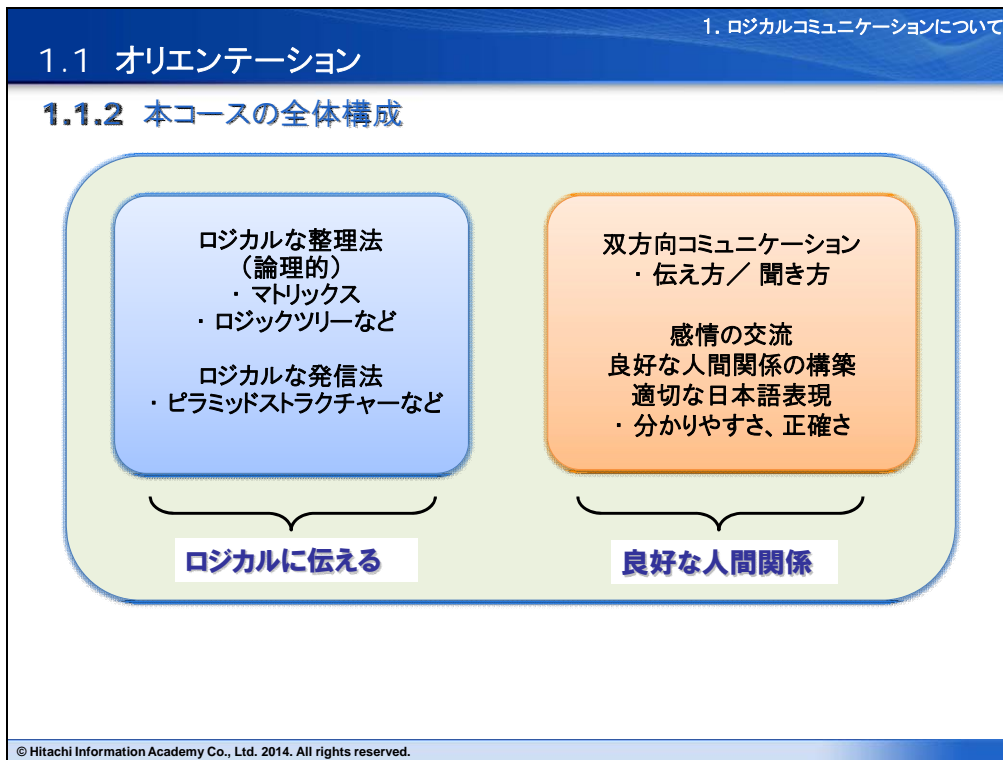
ビジネス環境の変化がますます激しさを増すにつれ、従来の仕事のやり方では対応できない場面が増えています。このような社会状況の中、ビジネスパーソンの間では、「ロジカルシンキング」や「クリエイティブ・シンキング」、「クリティカル・シンキング」などの思考法、つまり「考える力」が注目されています。

「考える力」の重要性は今に始まったわけではありませんが、インターネットの普及によって膨大な情報をすぐに入手できるようになった現在、情報や知識が豊富なだけでは評価されません。このような時代には、変化にスピーディに対応し、知識や情報から新しい価値を創造できる人材が求められています。それを実現するために「考える力」が必要となるわけです。

では、「考える力」を高める思考法を習得すれば、目の前の課題を解決できるのでしょうか。それだけでは十分とはいえません。「考える力」をつけると同時に、自分の考えをいかに分かりやすく伝えるスキルも必要です。相手の話を理解し、問題を共有し、共に解決しようとする姿勢、また、新しい価値を共に創造できるコミュニケーションスキルが必要です。

1.1.1 研修のねらいと目的

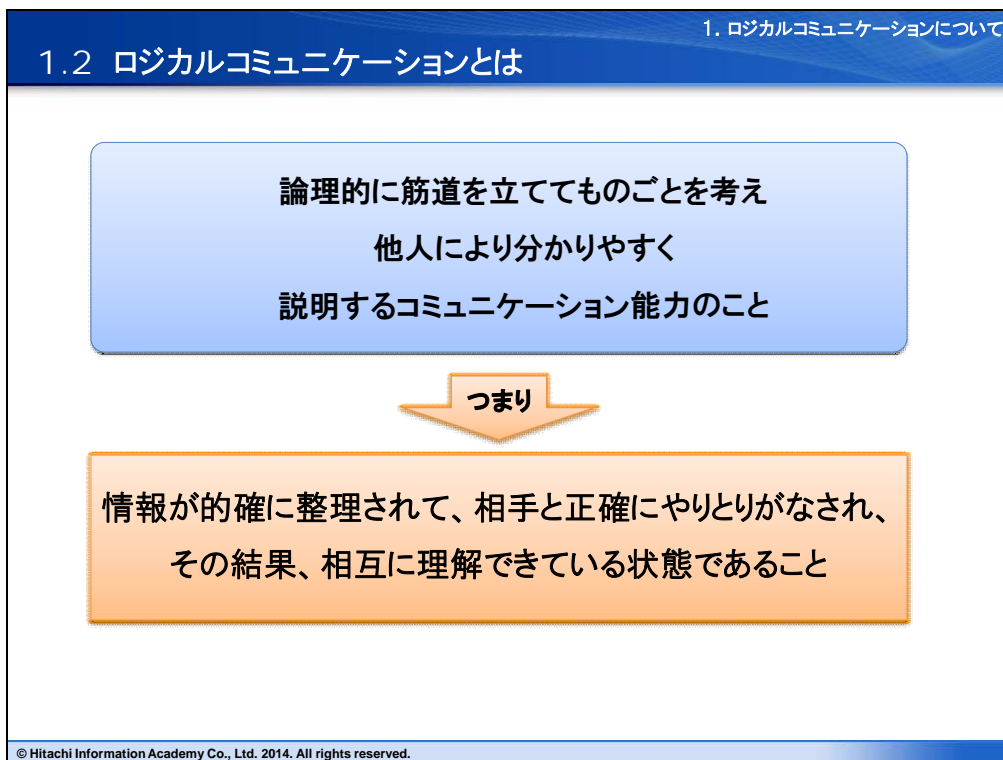
本研修では、「情報を分かりやすく伝える」ことと、そのために必要な「論理的な整理法」を修得します。



1.1.2 コースの全体構成

分かりやすさには論理性が必要です。しかし、論理的に伝えることだけでコミュニケーションが全てうまくいくとは限りません。本コースでは、論理面だけでなく、良好な人間関係に必要なコミュニケーションスキルもあわせて学習します。

1.2 ロジカルコミュニケーションとは



「ロジカルに伝える」とは、ロジカルシンキング（論理的思考）をベースに頭の中の情報を整理し、分かりやすく表現することです。

ロジカルシンキングができていないと、自分の頭の中にある情報を理解も整理もできないまま話をしてしまいます。その結果、相手に伝えたかったことをうまく伝えられずに会話が終わることがあります。

また、相手の話を聞く場合も自分の好きなように解釈してしまうことがあります。そのため相手の話の意図を自分勝手に理解し、誤解や齟齬が生じます。ここで必要となるのは「論理的に筋道を立てて物事を考え、他人に分かりやすく説明するスキル」です。つまり、情報が的確に整理されて、相手と正確にやり取りがなされている状態です。これは現代のビジネスのいかなるシーンにおいても必要なコミュニケーションといえます。

そして、人間関係で重要なことは相互理解です。組織においては、一方的なコミュニケーションではなく、自分の考えや気持ちを理解しながら、相手のことを理解するスキルも求められます。本コースでは、情報を整理して伝えながらも、相互理解できることを目的にコミュニケーションを学習します。

1.3 ロジカルコミュニケーションの特徴

1. ロジカルコミュニケーションについて

1.3 ロジカルコミュニケーションの特徴

ロジカルコミュニケーションの際には、以下の点に留意します

- まず、ものごとから論点を見だし、整理する
- 次に、客観的な事実やデータにもとづいて考え方の論拠(根拠)を明確する
- その上で、それらを筋の通った展開で組み立てる(構造化)
- そして、自分の言いたいことを分かりやすい表現で伝える

© Hitachi Information Academy Co., Ltd. 2014. All rights reserved.

論点を整理する際、要は何を言いたいのか(主張・結論)、それを裏付ける事実やデータ(根拠)にモレやダブりはないか、主張と論拠の関係は繋がっているか、論理の飛躍がないか等々を注意深く確認しながら整理します。


1. ロジカルコミュニケーションについて

1.3 ロジカルコミュニケーションの特徴

コミュニケーションにおいては

- (1) きく立場では、相手の言葉の不足や矛盾を聞き分け
- (2) 互いの疑問や問いに明確に答え
- (3) 文化や場を共有しない相手とも相互理解できること

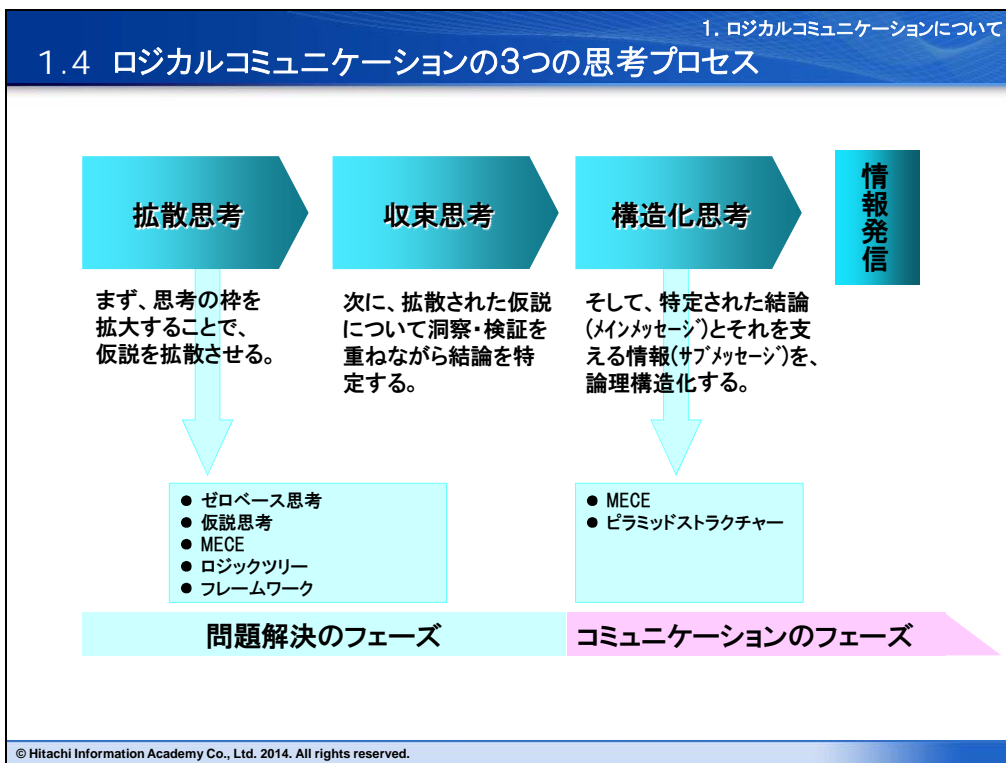
Point
誰にでも分かるように伝えること!



© Hitachi Information Academy Co., Ltd. 2014. All rights reserved.

ここでは「誰にでも分かるように伝える」ことがポイントです。主張がしっかりしていてもそれを誰にでも分かるように伝えなければロジカルであるとはいえません。

1.4 ロジカルコミュニケーションの3つのプロセス



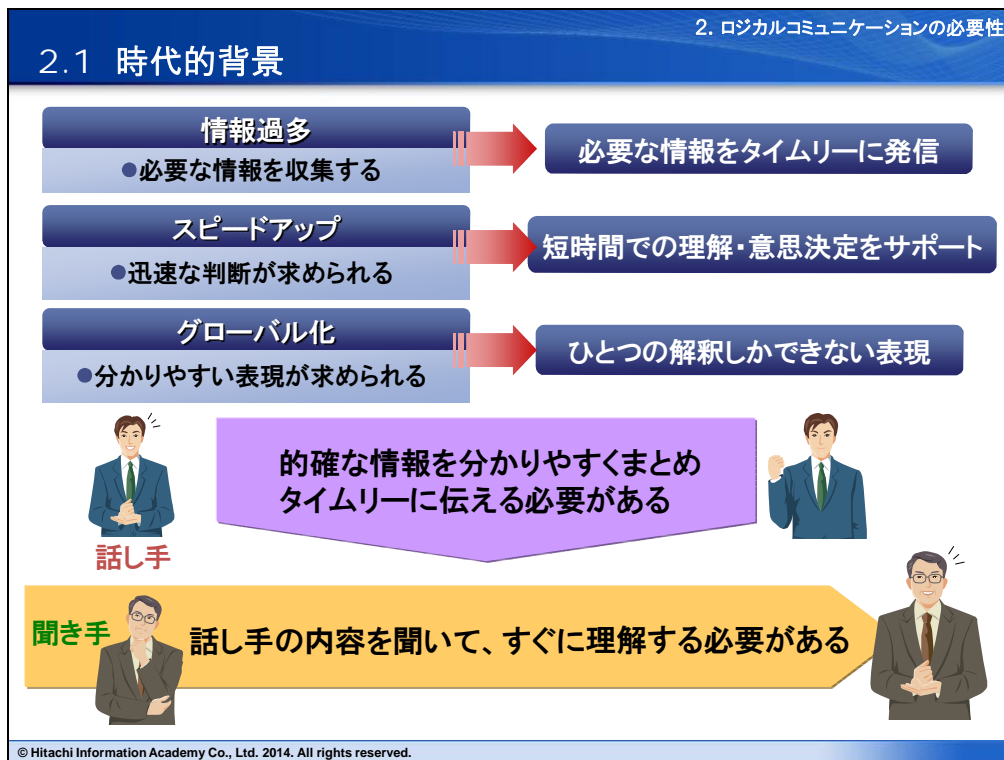
2 ロジカルコミュニケーションの必要性

本章では、ロジカルコミュニケーションの必要性について紹介します。

本章の構成

- 2.1 時代的背景
- 2.2 日本における論理的思考の現状
- 2.3 ロジカルシンキングの重要性
- 2.4 ハイコンテクスト文化とローコンテクスト文化
- 2.5 世代間におけるコミュニケーション・ギャップ

2.1 時代的背景



IT 革命以降、IT 化による情報過多、変化に対するスピードアップ、グローバル化が加速しています。それぞれに過去に例を見ないような新たな問題が生じる中、異なる文化的背景を有する人々との経済・社会活動が増えています。そこでは、単なる相互交流だけでなく、協働、理解、対立や衝突という様々な状況に直面することになります。

そういった環境においては、自分の伝えたいことを的確に整理し、相手に正確に伝える必要があります。それができれば聞き手は話の内容をすぐに理解でき、その後の行動や意思決定が明確になります。変化が絶えず、複雑化の進む昨今のビジネス環境では、ロジカルコミュニケーションが求められています。